

(素案)

令和7年 月 日

見附市教育委員会
教育長 渡邊 茂夫 様

見附市立学校配置等検討委員会
委員長 遠藤 英和

見附市における市立小中学校の適正規模・適正配置等の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現に向けた方策について（答申）

令和6年5月31日付け教総第54号で諮問のあった標記の件について、下記のとおり、見附市立学校配置等検討委員会として答申します。

記

1 「目指すべき教育環境に関する基本的な考え方」

見附市立学校整備の基本方針を一部修正し（※）、見附市の良さを活かしながら、地域と学校が共に協力して今日的な課題に対応した構想のもとに子どもたちを育て、未来の創り手としての児童生徒が一層それぞれの資質能力を身に着けることができるような教育環境を目指すことが望ましい

2 「目指すべき教育環境の実現に向けた方策」

- (1) できるだけ早期に、柔軟な学区の見直しを行い、統廃合を行うことで、持続可能な教育環境を実現するための規模に集約すること
- (2) 共創郷育をより着実に推進できるよう、小中一貫での小中学校の学区について、速やかに検討し見直しを行うこと
- (3) 現在のオープンスクール制度に加えて、複式学級のある小規模校から中大規模校への通学を可能とするなど、多様な学びの場を選べる環境を整備すること
- (4) 小中学校の再配置等は、児童生徒の負担や安全安心の確保に努め、地域事情を考慮した通学条件と通学手段を確保すること
- (5) 少子化の進捗状況を踏まえ、教育委員会は統廃合に向けた計画等を作成し、市民に対し丁寧な説明を行うこと

上記1および2を達成するため、見附市立学校配置等検討委員会の意見を資料とともに附帯事項として付すこととする。

(素案)

○附帯事項

- ① 学校施設の集約を行うことで、安全安心に学べる施設へ更新してもらいたい。
- ② 中学校の統廃合については、小学校にも大きな影響を与えることから、総合的・一体的に判断して統廃合計画を策定してもらいたい。
- ③ 施設を集約することで魅力的な学校づくりを行ってもらいたい。
- ④ 施設を集約したあとの子どもの居場所を確保してもらいたい。
- ⑤ 見附市らしい地域に寄り添った魅力ある教育に取り組んでももらいたい。
- ⑥ 学校統合後の空き校舎等を活用し、地域が元気になるまちづくりを進めてもらいたい。
- ⑦ 統廃合計画を待たずに実現可能な施策は速やかに実施してもらいたい。

※「目指すべき教育環境に関する基本的な考え方」について
見附市立学校整備の基本方針を以下の通り修正する。

見附市立学校整備の基本方針（変更前）

- (1) 小学校は地域住民の心のよりどころとして、児童数の極減により、複式学級と
ならない限り、内容を整備して温存する。
- (2) 中学校については、その特性にかんがみ、適正規模に統合整備して、教育効果の
向上をはかる。

↓

見附市立学校整備の基本方針（変更後）

- (1) 共創郷育をより着実に推進できるように、コンパクトな見附市の良さを活かし
た学校配置等を検討し統合整備を行う。その際に、児童生徒の多様性に対応でき
る学び場と教育の質を保証するため、小規模で特色のある教育を受けることの
できる環境の整備も大事にするように努める。
- (2) 小学校は、児童が社会性、協調性等を育むことができるように、多様な見方・考
え方を活かして共に学びあう一定規模の学習集団を確保できるよう統合整備を
行う。
- (3) 中学校は、教育効果の向上と教育の機会の確保を図るため、可能な限り専門教
科教員を配置することができるよう統合整備を行う。

答申（素案）の内容について

1 目指すべき教育環境に関する基本的な考え方

見附市立学校整備の基本方針を一部修正（※）し、見附市の良さを活かしながら、地域と学校が共に協力して今日的な課題に対応した構想のもとに子どもたちを育て、未来の創り手としての児童生徒が一層それぞれの資質能力を身に着けることができるような教育環境を目指すことが望ましい

【解説】 昭和 40 年代に作成された「見附市学校整備の基本方針」を今の時代にあわせて修正し、見附市が目指すべき教育環境に関する基本的な考え方とする。

見附市がこれまで行ってきた地域と学校が共に協力しながら子どもたちを育てていく「共創郷育」を大切にするとともに、コンパクトな見附市の良さを活かした学校配置等を検討し、未来の創り手としての児童生徒が一層それぞれの資質能力を身に着けることができるような統合整備を行うことで市の目指すべき教育環境を実現する。

また、見附市が大切にしてきた児童生徒が多様な見方・考え方を活かして学びあう場を保証するため、小規模で特色のある教育を受けることのできる環境の整備に努める。

小学校においては、「地域住民の心のよりどころとして」ではなく「子どもの教育環境を主体に考える」こととし、社会性、協調性等を育むことができるように、一定規模の学習集団を確保できるよう統合整備をすすめる。

中学校については、教育効果の向上と教育の機会の確保を図るため、可能な限り専門教科教員を配置することができるよう統合整備をすすめる。

（※）

見附市立学校整備の基本方針（変更前）

- (1) 小学校は地域住民の心のよりどころとして、児童数の極減により、複式学級とならない限り、内容を整備して温存する。
- (2) 中学校については、その特性にかんがみ、適正規模に統合整備して、教育効果の向上をはかる。

↓

見附市立学校整備の基本方針（変更後）

- (1) 共創郷育をより着実に推進できるように、コンパクトな見附市の良さを活かした学校配置等を検討し統合整備を行う。その際に、児童生徒の多様性に対応できる学び場と教育の質を保証するため、小規模で特色のある教育を受けることのできる環境の整備も大事にするように努める。
- (2) 小学校は、児童が社会性、協調性等を育むことができるように、多様な見方・考え方を活かして共に学びあう一定規模の学習集団を確保できるよう統合整備を行う。
- (3) 中学校は、教育効果の向上と教育の機会の確保を図るため、可能な限り専門教科教員を配置することができるよう統合整備を行う。

2 目指すべき教育環境の実現に向けた方策

- (1) できるだけ早期に、柔軟な学区の見直しを行い、統廃合を行うことで、持続可能な教育環境を実現するための規模に集約すること

【解説】 急速な少子化と施設の老朽化を勘案して、できるだけ早期に統廃合を行うことで、目指すべき教育環境の構築をするものとする。規模については文部科学省の標準的な規模を基本とするが、地域の事情を反映できるよう「持続可能な教育環境を実現するための規模」とした。

- (2) 共創郷育をより着実に推進できるよう、小中一貫での小中学校の学区について、速やかに検討し見直しを行うこと

【解説】 「ふるさと見附を愛する子ども」を地域と学校が共に協力しながら育てていけるような小中一貫した教育ができるよう、小中学校の学区の見直しを行うこととした。特に現行の見附小学校区の中学校進学先については配慮が必要と考える。

- (3) 現在のオープンスクール制度に加えて、複式学級のある小規模校から中大規模校への通学を可能とするなど、多様な学びの場を選べるような環境を整備すること

【解説】 小規模校への区域外就学だけでなく、複式学級のある小規模校から中大規模校への通学を可能とするなどの取組を行うことで多様な学びの場を選択できるよう環境の整備を行うこととした。

- (4) 小中学校の再配置等は、児童生徒の負担や安全安心の確保に努め、地域事情を考慮した通学条件と通学手段を確保すること

【解説】 統廃合により児童生徒の自宅から学校まで通う距離が延びることが予想されることから、冬季でも子どもたちが安全安心に学校に通えるよう、スクールバス等の整備を行うこととした。

- (5) 少子化の進捗状況を踏まえ、教育委員会は統廃合に向けた計画等を作成し、市民に対し丁寧な説明を行うこと

【解説】 地域における学校の存在は大きいことから、教育委員会は「子どもの教育環境を第一に考える」だけでなく、児童生徒および未就学児の保護者の声を聴き、市民に対して丁寧な統廃合計画等の説明を行うこととした。

3 附帯事項

- ① 学校施設の集約を行うことで、安全安心に学べる施設へ更新してもらいたい。

【解説】 施設を集約することで、学校の維持管理経費を抑えることが期待できるため、安全安心で学べることはもちろん、時代に沿った施設環境の整備をしてほしい。

- ② 中学校の統廃合については、小学校にも大きな影響を与えることから、総合的・一体的に判断して統廃合計画を策定してもらいたい。

【解説】 中学校の統廃合については、小学校にも大きな影響を与えることから、総合的・一体的に判断して統廃合計画を策定して、安心して進学できる環境を整えてほしい。

- ③ 施設を集約することで魅力的な学校づくりを行ってもらいたい。

【解説】 ただ単に施設を集約するのではなく、子どもたちにとって魅力的な学校づくりをしてほしい。

- ④ 施設を集約したあとの子どもの居場所を確保してもらいたい。

【解説】 子どもたちが集う場所の整備など、子ども施策を充実することで市民はもとより、「子育てするならみつけ」と市外からの転入者をよびこむような施策をしてほしい。

- ⑤ 見附市らしい地域に寄り添った魅力ある教育に取り組んでももらいたい。

【解説】 地域の伝統行事など、地域と学校が共に協力しながら子どもたちを育てていく共創郷育をより一層すすめていけるよう、引き続き「ふるさと見附を愛する子ども」を育てる体制を作してほしい。

- ⑥ 学校統合後の空き校舎等を活用し、地域が元気になるまちづくりを進めてもらいたい。

【解説】 地域の拠点である学校が空き校舎のまま廃れていくことのないよう、地域住民と子どもたちが元気になれる施設として活用してほしい。

- ⑦ 統廃合計画を待たずに実現可能な施策は速やかに実施してもらいたい。

【解説】 統廃合には計画の策定、実施まである程度の時間が必要となることが予想されるが、現在の運用の中で実施可能な施策はできるものから速やかに実施してほしい。